

3年道德通信 第22号

22回『私が目ざした白』― 陶芸家・前田昭博

前田昭博さんは、鳥取の雪景色を思わせる白磁の美しさに魅せられ、陶芸家を目指しました。周囲に助けられながら創作しても、知人を頼っても、思うような作品が作れず、そのうち「自分の目指す作品は、自分が試行錯誤して作り上げるしかない」という心境に達します。

人間国宝となった現在も前田さんは「とことんやっただいえるような私ならではの白磁を作りたい。ぬくもりのある柔らかさを感じさせる磁器を追究したい」という思いを込めて創作を続けています。



みんなの意見

前田さんは、どうしてたった一人で陶芸と向き合おうと思ったのでしょうか。

- ・人のやり方をまねしても自分がつくりたい物は永遠につくれないから。
- ・人に頼らず、自分で陶芸のなにかを見つけなければならないから。
- ・自分の求めている物は、自分で見つけなければならないから。
- ・自分の力で自分のつくりたい作品をつくりたかったから。
- ・他人の意見に頼っていては他人と同じような物しかつくれないから。
- ・納得のいく作品をつくるためには自分で頑張らないといけないと思ったから。



前田さんは、どうして今も挑戦を続けているのでしょうか。

- ・自分の目指す物や感動を形にして表すことはとても時間がかかるから。
- ・今の自分の作品が完璧だと思っていないから。まだまだ極められると思っているから。
- ・今で満足せずに、もっと上を目指したい。
- ・自分がどこまで行けるか挑戦したいから。陶芸が好きだから。



挑戦を続けることは、自分に何をもたらしてくれるでしょう。

- ・不安や苦労もたくさんあるけど、成功したときに大きな達成感がある。先のことばかり考えずに、自分の好きなことを大切にすることも大事だなと思った。
- ・自分が何もやらなかったら何も返ってこないし、頑張ったことは結果が返ってくる！
- ・自分が決めたことを追求し続けると、自分に力がつく。

物事を追究していくところに

ついて、考えよう。

